

令和5年度

第1回 3学年進路説明会

よりよい自己実現をめざして

1部 高等学校からの説明

- 神奈川県立横浜立野高等学校
- 神奈川県立磯子工業高等学校
- 横浜清風高等学校

2部 中学校からの説明



令和5年5月9日(火)

横浜市立汐見台中学校

もくじ



はじめに

高等学校の先生方による説明

I. 進路選択とは	P. 2 ~ 9
1. 進路を選択するにあたって		
2. 中学校卒業者の動向		
3. 就職について		
4. 高等学校の種類		
5. 高等学校以外の進学先		
II. 神奈川県公立高等学校の受検	P. 10 ~ 12
1. 学区		
2. 神奈川県公立高等学校入学選抜制度の概要		
3. 具体的な選抜方法		
III. 私立高等学校の受験	P. 13 ~ 15
1. 特色		
2. 受験方法		
3. 私立高等学校の「入試相談」制度		
IV. よりよい自己実現をめざして	P. 16 ~ 18
1. 自分に合った...		
2. 説明会・体験入学などに積極的に参加してください		
3. 進路希望調査		
V. 資料編	P. 19 ~ 23
1. 公立の受検料等の額		
2. 公立学校の就学支援金制度の概要		
3. 高校生の就学援助制度の概要		
4. 私立高等学校等の学費支援制度等について		

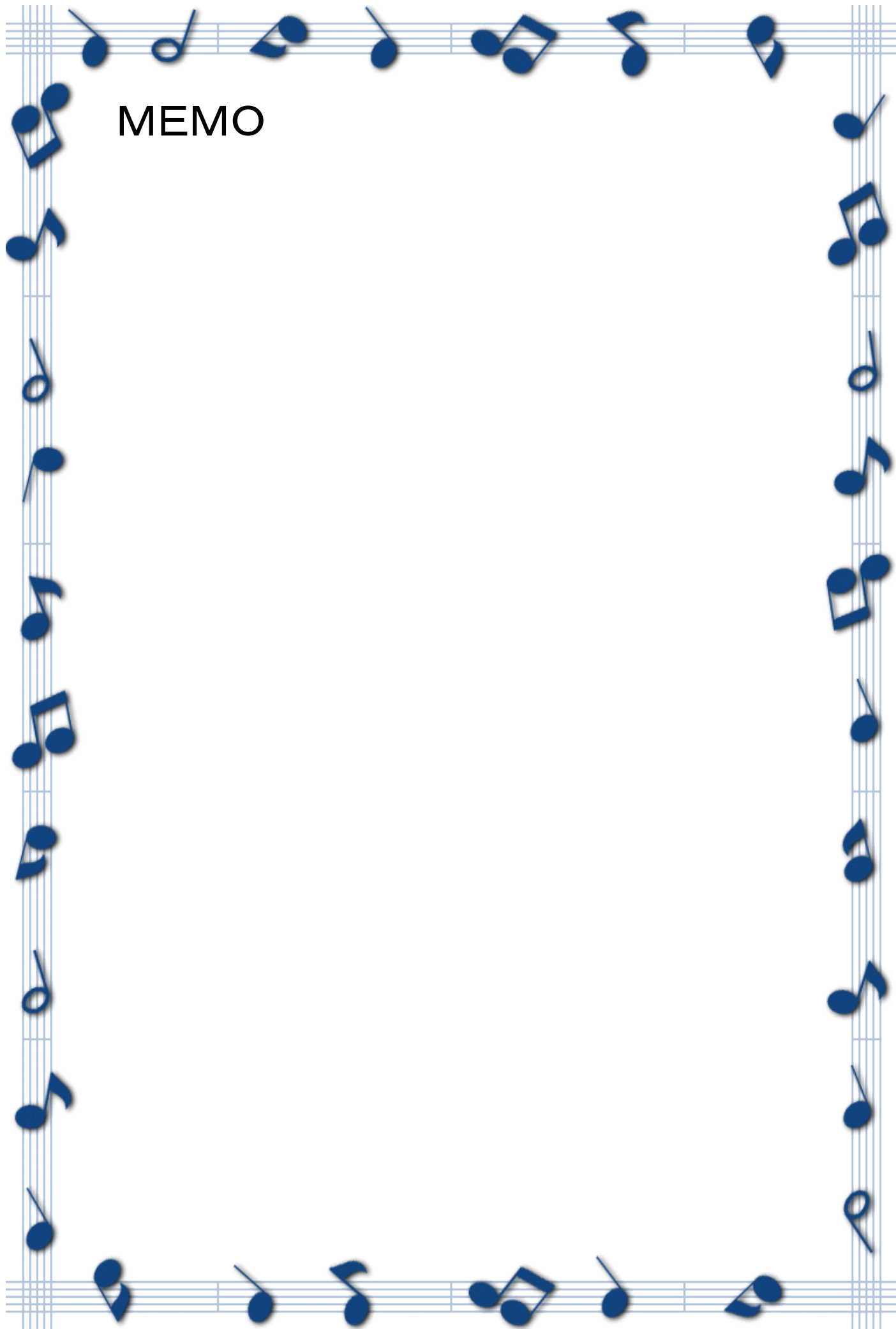
はじめに

進路というと、どこの高校へ行くかという、進学先を選ぶというものだと思っている人はいませんか。進路とはどのような人生をおくるかという、壮大な計画を立てるものです。ですから、生きている限り進路はどこまでも続くのです。中学3年生の進路は人生計画のほんの一部にしかすぎません。しかし、この進路選択が後の人生に大きく影響を与えるのは言うまでもありません。

生徒の皆さんは義務教育9年間を終えて、新しい世界へ旅立つ準備をしているのです。その前には就職試験や入学試験(受検・受験)があり、これらの大きな壁を乗り越えなくてはなりません。けれども言い換えれば、この機会は自分で自分の生きる道を選ぶ力をつけるチャンスです。

生徒の皆さんや保護者の方のお役に立てればと思い、私たち教職員は全力で応援していきます。

MEMO



I. 進路選択とは



1. 進路を選択するにあたって

(1) 自分の人生を設計する

進路は将来を見据えての選択であることを第一に考える必要があります。社会の中で自分を生かすために自己の能力・適性を正しく把握し、方向を考えるのが中3の時期です。現在すでに就きたい職業まで考えている生徒もいますが、多くは具体的にはもっと先へ行ってから、という段階と思われる。しかし、「とにかく高校へ入れば良い」的なとらえ方では目標が設定できないばかりでなく、努力も低いレベルのものになりがちです。

中学3年という進路の選択の時期を機会に自己をさらに深く見つめなおし、自分をどんな人間に育てあげるかを考え、自己を理想の自分に近づけていく努力をすることにこの時期の進路選択の大きな意味があると思います。

(2) 親子で話し合いを積み重ねて

具体的に進路希望(就職先や受験校)を絞っていくのは2学期からですが、その前から何度も話し合いがもてるとよいと思います。できるだけ家族全員と相談できる雰囲気をご家庭でつくられることをお勧めします。一方的な親のおしつけや本人のことだからと任せきりにならないようにお願いします。よほどしっかりした生徒でない限り、中学生で、自分にとってベストの選択をするのはむずかしいものです。

(3) 目標を持ってがんばる

いよいよ受験校を選ぶという時期になってからの選択では、それまでの学習の準備が不十分になってしまいます。また、それぞれの学校の特色を理解し、自分にあった学校を選ぶということを考えれば、早めに情報を集めて、行きたい学校に進むための心構えを用意しておかなければなりません。教科の学習だけでなく、自分の個性を伸ばし、それぞれの学校で特色ある教育活動を受けるための準備も必要ということです。あと半年やってみて、そのときに行ける高校を考えるという消極的な姿勢では力を伸ばすチャンスが少なくなってしまう。

一学期の現時点で具体的に進学希望校を絞り込むことはできないかと思いますが、各自がどのような姿勢でこれからの進路選択に向かっていくのか、どのようなことができる進路先を希望するのかを考えておくことは必要です。行きあたりばったりの選択は避けたいものです。

(4) きちんとした生活姿勢が確かな進路選択につながる

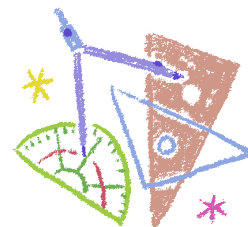
進路選択は先にも述べたように、いかに自己を育てていくということが大切です。自分の生き方をどうするか、ということの延長に進路選択があります。一つひとつの事に対して自分がどう対処していくのか、どんな努力をするのかで未来の自分が変わってきます。中学卒業後の進路選択だけをきちんとするということはできません。その意味では「毎日の生活」、「行事への取り組み」、「学習への姿勢」、すべてが進路の選択と無関係ではありません。いろいろなことへの関わり方が自分の生き方につながっていき、自然に進路の選択が確かなものになってきます。自己をよりよく生かすために、よく考え、理想を抱き、実践する姿勢が備わっているならば、どんな条件でも自己を伸ばす事ができ、結果的にどのような進路を選択しても、充実した生活と成長が期待されるはずで

2. 中学校卒業生の動向

神奈川県が実施する「公立中学校等卒業生の進路状況調査」によると、令和3年度に公立中学校等を卒業した生徒のうち、99%以上の生徒が高等学校等の上級学校に進学しています。

さらに、上級学校へ進学した生徒の約98%は高等学校に、約2%が、特別支援学校・高等専門学校・各種専修学校等に進学しています。

進路先	汐見台中学校			
	(令和2年度卒業生)	(令和3年度卒業生)	(令和4年度卒業生)	
高等学校	公立	58.0%	61.8%	56.9%
	私立	40.1%	35.7%	41.1%
特別支援学校	0.6%	2.5%	1.0%	
高等専門学校	0.6%	0.0%	0.0%	
高等専修学校	0.6%	0.0%	1.0%	
就職	0.0%	0.0%	0.0%	
その他	0.0%	0.0%	0.0%	



3. 就職について

(1) 現状

ここ何年も就職の状況は、大変厳しいものがあります。中学新卒の場合、職種でいうと男子は建設・製造業が中心で、女子は飲食店関係やサービス業が主なようです。また、全体的に求人数が少なく、職種も限られているだけではなく、給与面も厳しく、初任給は職種によって異なるものの、15万円前後です。

また、仕事の少ないこととともに大きな問題点は、中学校卒業後の就職者の離職率が高いことです。せっかく就職しても、3年以内では70%の人がやめています。このような状況ですから、就職を選択する場合は、よほどの覚悟を決めてがんばる必要があります。高校の専門学科、高等専修学校などで、技術を身につけてから就職するほうが、はるかに有利だといえます。

(2) どのような人が求められているのか

入社試験では、出席状況・学習意欲・生活態度・健康状態・長く続けていけるかなどが問われます。特に、出席状況は、仕事を続けていけるかどうかの判断基準ですから、重視されます。

(3) 就職の手続き

就職する場合、必要な書類の準備や手続きは、中学校を通して行われます。家族で話し合い、就職する意志がしっかりと固まったら、担任の先生と相談してください。10月に求人一覧が出ますから、自分の条件にあった就職先を選びましょう。

[手続きは…] 公共職業安定所(ハローワーク)から学校へ送られてきた職業相談票に記入し、公共職業安定所へ提出します。この職業相談票をもとに、自分の条件に合った就職先を選び、職場見学をして会社との面接をします。

[採用試験は…] 1月上旬にすぐ行われます。面接だけのところや学科試験などを実施するところもあります。求人数は多くありませんので、1月以降になると選択できる企業は少なくなります。なお、親戚や知人などの紹介の場合でも、公共職業安定所を通して手続きを進め、決定することが大切です。

4. 高等学校の種類

(1) 公立・私立（神奈川県の場合）※ 公立と私立では、教育方針・授業料等で様々な違いがあります。

[公立学校]	設置者が県や市	神奈川県立・横浜市立・川崎市立・横須賀市立
[私立学校]	設置者が学校法人	

(2) 課程の違い 学習時間や学習方法の違いで、次の3つに分かれます。

課程	特徴
全日制	中学校と同じように、朝から午後まで授業を行います。修業年限は3年間です。
定時制	夕方から夜にかけて授業を行います。また、一部、朝や昼に授業をする学校もあります。修業年限は3年以上ですので、3年間で卒業できる学校もあります。
通信制	教科書等を用いた自学自習が基本です。科目ごとに定められた数のレポートを提出し、添削を受けるという形で学習を進めていきます。月に2回程度のスクーリング(面接指導)に出席し、勉強の仕方や、内容について教わります。修業年限は3年以上です。毎日登校してきめ細かな指導を受けたり、ITを活用して学ぶこともできる県立横浜修悠館高等学校・神奈川県立厚木清南高等学校もあります。

(3) 学年制と単位制の違い

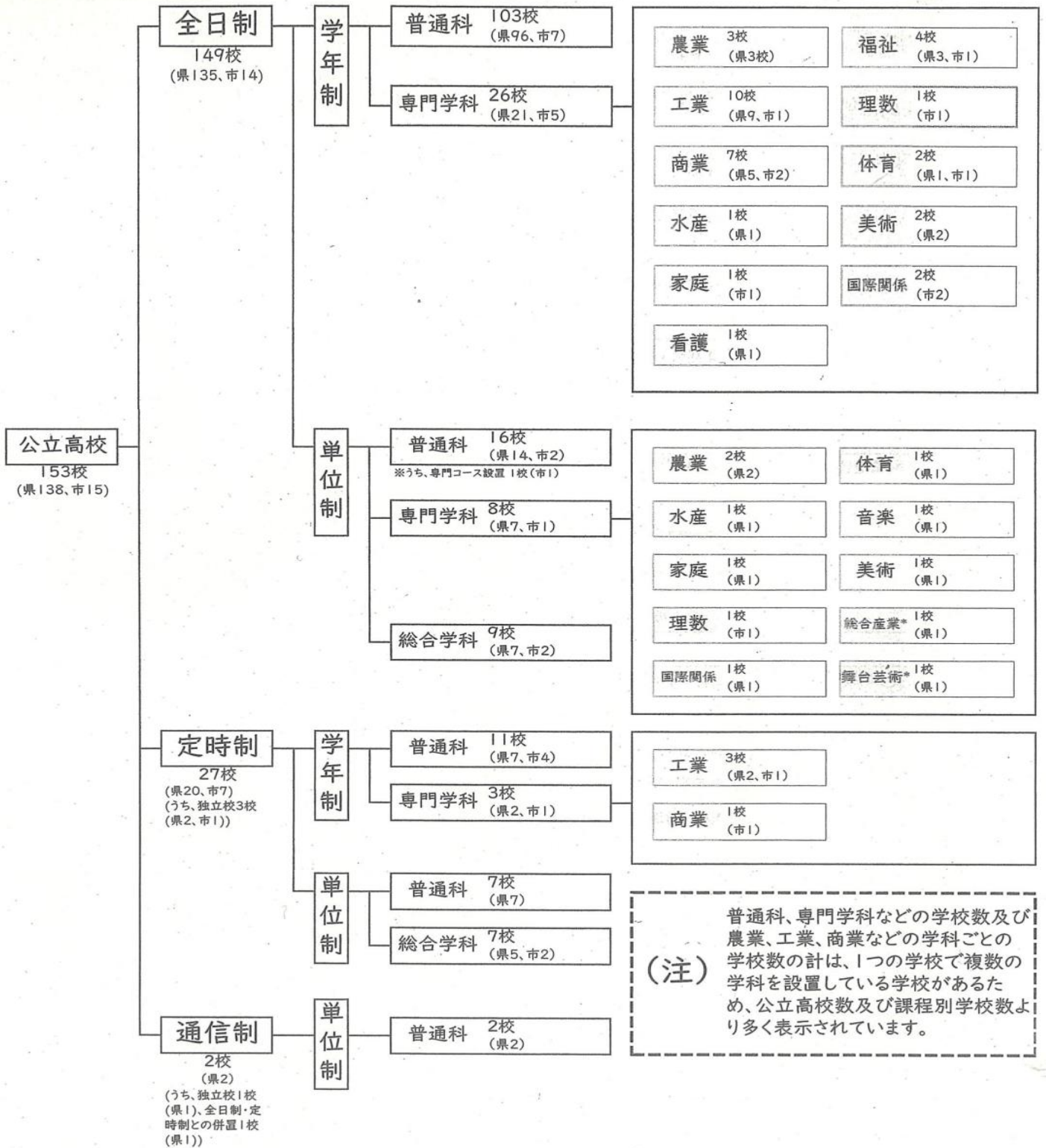
学年制では、中学校と同じように1年ごとに進級していきます。単位制では、学年の区分がなく、3年間で必要な単位数を修得することで卒業できます。単位というのは、一定の学習量を表すもので、50分の授業を1年間に35回で1単位と数えます。

(4) 学科の違い

普通科	<p>国語、数学、外国語(英語)、保健体育、芸術(音楽・美術・書道)などといった共通教科の科目を中心に学習します。また、学校行事を充実させたり、体験学習を積極的に取り入れたりして多彩な教育活動を展開しています。</p> <p>さらに、クリエイティブスクール、フレキシブルスクール、フロンティアスクール、インクルーシブ教育実践推進校など、一人ひとりの学習希望や進路希望に応じた学校もあります。</p> <p>※ クリエイティブスクール(県立釜利谷高等学校、県立田奈高等学校など) 一人ひとりが持っている力を必ずしも十分に発揮できなかった生徒に対して、これまで以上に学習意欲を高める取組を行う学校です。</p> <p>※ フレキシブルスクール(県立川崎高等学校など) 一人ひとりの生活スタイルや学習のニーズに合わせて、時間帯を選んで学ぶ学校です。</p> <p>※ フロンティアスクール(県立横浜明朋高等学校) 午前部と午後部に分かれ、1日約4時間(半日単位)の授業を受けて、ゆっくりじっくり学ぶ昼間定時制の学校です。</p> <p>※ インクルーシブ教育実践推進校 知的障害のある生徒が高校教育を受ける機会を広げながら、全ての生徒が共に学び、相互に理解を深める教育に取り組む学校です。</p>
専門学科	<p>各種産業を支える将来のスペシャリストとして必要な専門的知識・技術を身に付けるため普通科の教科以外に、それぞれの専門分野に関する科目を学習します。各専門科目の学習では、普通科と比べて、実習などの体験学習が多く組み込まれているほか、大学や研究機関、企業と連携した授業を行う学校もあります。また、専門科目の学習を通して、多くの生徒が様々な資格を取得しています。</p> <p>専門学科には、産業教育系(農業、工業、商業、水産、家庭、看護、福祉、総合産業)と個性教育系(体育、音楽、美術、芸術、国際)があります。</p>
総合学科	<p>幅広い共通教科の科目と専門科目の中から、各自が特色ある科目を選択して、自分の個性・適性を発見し、将来の進路を考える学習を重視します。入学者は1年次に「産業社会と人間」という科目を学びます。体験的な学習や実習を重視した授業を展開する学校もあります。</p>

(5) 神奈川県公立高等学校 (令和4年4月現在)

- 神奈川県には、県立と市立をあわせて、153校の公立高等学校があります。
- 高等学校(以下、「高校」といいます。)は、学習形態(学習時間、修業年限、学習方法など)の違いによって、全日制、定時制、通信制の課程に分かれています。
- それぞれの課程は、学びのしくみによって、学年による教育課程の区分を設ける学年制と区分を設けない単位制に分かれます。さらに、主に学習する内容によって、普通科・専門学科・総合学科に分かれています。



表中*印が付された学科は、「高等学校設置基準」における「その他専門教育を施す学科」に分類される学科です。

改革の柱と重点目標

重点目標 1

すべての生徒に
自立する力・社会を生き抜く力を育成します。

▶ 生徒学力調査の実施

学力テストを実施し、生徒一人ひとりの学力の定着と向上を支援します。

▶ 教育課程研究開発校

SDGsをテーマとするなど、「総合的な探究の時間」に係る研究や「シチズンシップ教育」に係る研究などに取り組みます。

▶ 英語資格・検定試験の活用

英語資格・検定試験の受験を促進するための支援を実施し、生徒一人ひとりの英語力の定着と向上に取り組みます。

▶ 県立高校生学習活動コンソーシアムの形成・推進

様々な学習機会の提供と充実を図るため、大学・企業等と連携するコンソーシアムを拡大し、活用を促進します。

重点目標 2

生徒の個性や優れた能力を伸ばす教育に
取り組みます。

▶ 学力向上進学重点校

将来の日本や国際社会でリーダーとなる高い資質・能力を持った人材を育てます。

▶ 理数教育推進校

次代を担う科学技術系人材を育てます。

▶ グローバル教育研究推進校

国際的な視野を持ち、多様な価値観を受け入れられる力を持つグローバル人材を育てます。

▶ 国際バカロレア認定校

「国際バカロレア資格」(国際的な大学入学資格)が取得可能な国際バカロレアのプログラム(ディプロマ・プログラム)に取り組み、グローバル人材を育てます。

▶ 外国につながる生徒への教育機会の提供と学習支援

海外から帰国した生徒や日本語を母語としない生徒のための特別募集実施校を増やします。

日本語を母語としない生徒の日本語指導など、学校への適応に向けた生活面での支援も実施します。

重点目標 3

共生社会づくりに向けた
インクルーシブ教育を推進します。

▶ 様々な課題を抱える生徒に対する支援体制の充実

生徒が抱える悩みや置かれている環境など、様々な課題に対応するため、支援体制の充実を図ります。

▶ インクルーシブ教育実践推進校

知的障がいのある生徒が高校教育を受ける機会を広げます。

▶ 通級指導導入校

発達障がい(学習障がい等)等、主たる障がいがあるが知的障がい以外の生徒が、通級による指導を受けることができるようにします。

めざす生徒像

県立高校に学ぶ生徒を、夢や希望、そして志をもち、学びを通じて自らの人生を切り拓き、生涯をたくましく生きる力や、人を思いやり、社会とかかわり貢献する力を身に付けた人に育てます。

めざす学校像

「めざす生徒像」の実現に向けて、生徒一人ひとりを大切に育む豊かな人間性と高い専門性を身に付けた教職員の育成・配置や、生徒にとって安全・安心で快適な教育環境の整備、さらには地域と連携した学校づくりなどを通じて、県民と地域に信頼され、活力ある魅力にあふれた県立高校にします。

改革の柱 2 学校経営力の向上

重点目標 4

学校の教育目標の着実な達成をめざす
学校経営に取り組みます。

▶ **スクール・ポリシーに基づく教育活動の推進**

スクール・ポリシーを策定・公表し、これに基づく教育活動を推進します。

▶ **県立高校の情報発信**

ホームページや説明会などを活用して、県立高校の魅力や県立高校改革について情報発信します。

重点目標 5

地域の新たなコミュニティの核となる学校づくりを進めます。

▶ **神奈川県らしいコミュニティ・スクールの導入・推進**

すべての県立高校で、地域住民や保護者とともに、地域に開かれ、地域とともにある学校づくりに取り組みます。

重点目標 6

生徒が安全・安心で快適に学べる教育環境の提供に取り組みます。

▶ **実験・実習等にかかる環境整備の推進**

理科の実験・実習や芸術・体育・家庭などの実技、専門教育のための設備・備品の計画的整備を進めます。

▶ **耐震化・老朽化対策の更なる推進**

県立高校の耐震化と老朽化対策を進めます。

▶ **トイレ環境の改善**

トイレの洋式化をはじめ、現代の生活様式等を踏まえた環境の改善に取り組みます。

改革の柱 3 再編・統合等の取組み

重点目標 7

少子化社会における適正な規模等に基づく
県立高校の再編・統合に取り組みます。

▶ **学校規模の適正化**

現在の学校規模以上とすることを基本に、地域性やそれぞれの学校の実態に応じた学級数とします。

▶ **普通科専門コースの解消**

すべて解消し、これまでの成果を学校全体の特色とし、または専門学科へ改編しました。

▶ **専門学科の改編**

多様な進路希望に対応するため、学科の改編等に取り組みます。

▶ **総合学科の改編**

総合学科の地域バランス等を踏まえ、他学科へ改編し、適正配置に取り組みます。

▶ **再編・統合**

2つの高校が1つになり、新しい高校としてスタートします。

▶ **クリエイティブスクールの設置**

中学校までに持てる力を十分に発揮しきれなかった生徒を積極的に受け入れます。

詳細は、県のホームページをご覧ください。

「県立高校改革基本計画」 https://www.pref.kanagawa.jp/documents/8302/1218148_4405866_misc.pdf

「県立高校改革実施計画(全体)」 https://www.pref.kanagawa.jp/documents/8302/1218148_4405897_misc.pdf

「県立高校改革実施計画(Ⅰ期)」 https://www.pref.kanagawa.jp/documents/8302/1218148_4405898_misc.pdf

「県立高校改革実施計画(Ⅱ期)」 <https://www.pref.kanagawa.jp/documents/8302/jissikeikaku-2ki.pdf>

「県立高校改革実施計画(Ⅲ期)」 <https://www.pref.kanagawa.jp/documents/8302/jissikeikaku-3ki.pdf>

(6) 神奈川県私立高等学校

★ 公募を行った(令和5年度入試)県内の私立高等学校

所在地	学校名	課程/学科	男女
横浜市	鶴見区	白鷗女子	普通 女
		聖ヨゼフ学園	普通 男女
		橘学苑	普通 男女
		鶴見大学附属	普通 男女
		法政大学国際	普通 男女
	神奈川区	横浜創英	普通 男女
		捜真女学校	普通 女
	保土ヶ谷区	横浜清風	普通 男女
	磯子区	横浜学園	普通 男女
	金沢区	関東学院六浦	普通 男女
		横浜	普通 男女
		横浜創学館	普通 男女
	港北区	慶應義塾	普通 男
		英理女子学院	普通 女
		日本大学	普通 男女
		武相	普通 男
		清心女子	普通 女
	栄区	山手学院	普通 男女
	泉区	秀英	普通 男
	旭区	横浜商科大学	普通・商業 男女
星槎		普通 男女	
横浜富士見丘学園		普通 男女	
緑区	横浜翠陵	普通 男女	
瀬谷区	横浜隼人	普通・国際語 男女	
青葉区	桐蔭学園	普通 男女	
都筑区	中央大学附属横浜	普通 男女	
川崎市	中原区	大西学園	普通 男女
			家庭 女
	法政大学第二	普通 男女	
多摩区	日本女子大学附属	普通 女	
麻生区	桐光学園	普通 男女	

所在地	学校名	課程/学科	男女
相模原市	中央区	麻布大学附属	普通 男女
	南区	相模女子大学	普通 女
横須賀市	相模原	普通 男女	
	東海大学付属相模	普通 男女	
	湘南学院	普通 男女	
	三浦学苑	普通・工業技術 男女	
	緑ヶ丘女子	普通 女	
平塚市	横須賀学院	普通 男女	
鎌倉市	平塚学園	普通 男女	
	鎌倉学園	普通 男	
藤沢市	北鎌倉女子学園	普通・音楽 女	
	鎌倉女子大学	普通 女	
	鶴沼	普通 男女	
	湘南工科大学附属	普通 男女	
	日本大学藤沢	普通 男女	
小田原市	藤嶺学園藤沢	普通 男	
	藤沢翔陵	普通・商業 男	
茅ヶ崎市	旭丘	普通・総合 男女	
	相洋	普通・商業 男女	
逗子市	アレセミア湘南	普通 男女	
大和市	聖和学院	普通・英語 女	
	柏木学園	普通 男女	
伊勢原市	聖セシリア女子	普通 女	
松田町	向上	普通 男女	
箱根町	立花学園	普通 男女	
厚木市	函嶺白百合学園	普通 女	
	厚木中央	普通・工業 男女	



※ 過去に志願のあった東京都内の主な私立・国立高等学校

所在地	学校名	課程/学科	男女
大田区	蒲田女子	普通 女	
	大森学園	普通・工業 男女	
	日本体育大学荏原	普通 男女	
	東京実業	普通・機械・電気 男女	
品川区	品川エトワール女子	普通 女	
	朋優学院	普通 男女	
	青陵	普通 男女	
	品川翔英	普通 男女	
港区	明治学院	普通 男女	
	東海大学付属高輪台	普通 男女	
	正則	普通 男女	
	東京工業大学附属科学技術	科学・技術 男女	
目黒区	自由ヶ丘学園	普通 男	
	目黒日本大学	普通 男女	
渋谷区	國學院	普通 男女	
	青山学院	普通 男女	

所在地	学校名	課程/学科	男女
世田谷区	駒澤大学	普通 男女	
	日本大学櫻丘	普通 男女	
	東京学芸大学附属	普通 男女	
台東区	岩倉	普通・運輸 男女	
豊島区	昭和鉄道	鉄道 男女	
	巣鴨	普通 男	
荒川区	開成	普通 男	
江東区	芝浦工業大学附属	普通 男女	
中野区	明治大学付属中野	普通 男	
文京区	中央大学	普通 男女	
杉並区	日本大学鶴ヶ丘	普通 男女	
板橋区	日本大学豊山女子	普通 女	
	玉川学園	普通 男女	
	日本大学第三	普通 男女	
町田市	鶴川	普通 女	
		普通 男女	
国分寺市	早稲田実業	普通 男女	

Ⅱ. 神奈川県公立高等学校の受検

1. 学区

県立の高等学校と横須賀市立の高等学校には学区はなく、県内のどこからでも志願できます。横浜市立および川崎市立の高等学校については、原則としてそれぞれの市内を学区とします。ただし、横浜市立の高等学校においては、「横浜商業高等学校(別科を含む全学科)」、「戸塚高等学校音楽コース」、「横浜サイエンスフロンティア高等学校」および「戸塚高等学校(定時制)」は学区がありません。また、川崎市立の高等学校においては、全日制・定時制とも専門学科の高等学校は学区がありません。

学区外からの志願をすることはできますが、入学できる人数は大幅に制限されています。

2. 神奈川県公立高等学校入学者選抜制度の概要 (「令和5年度募集案内」より抜粋)

	全日制	定時制	通信制																					
共通選抜の機会	募集	募集人員は募集定員の100%とします。	募集人員は募集定員の80%とします。 ※ 夜間以外の定時制は募集定員の100%とします。																					
	志願	ひとつの課程・学科・コース等に志願します。志願変更ができます。志願には願書と面接シート等を提出します。																						
	検査	【共通の検査】(*1)(☆) 学力検査(原則5教科)・面接 ※ 特色検査を実施する場合は3教科にまで減じる場合があります。	【共通の検査】(☆) 学力検査(原則3教科)・面接 ※ 理科・社会を実施する場合があります。	面接または作文																				
	選考	特色検査(実技検査・自己表現検査)を実施する場合があります。																						
		【第1次選考】募集人員の90%まで、調査書の評定(2・3年)(*2)と実施した検査の結果をもとに定められた数値算出の方法(※)で選考します。 【第2次選考】調査書の評定を用いずに、実施した検査の結果をもとに募集人員まで選考します。(*3)	調査書と実施した検査の結果をもとに総合的に選考します。																					
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>☆ 共通の検査の学力検査(外国語(英語))においては、全日制・定時制ともにリスニングテストを実施します。</p> <p>特別な設置趣旨の学校について</p> <p>*1 クリエイティブスクール(県立田奈高等学校、県立釜利谷高等学校、県立横須賀南高等学校の普通科、県立大井高等学校、県立大和東高等学校)は、学力検査を行いません。</p> <p>*2 クリエイティブスクールは、調査書の評定は使わず、観点別学習状況を活用します。 フロンティアスクール(県立横浜明朋高等学校および県立相模向陽館高等学校)でも、調査書の評定は使わず、必要に応じて観点別学習状況を活用し総合的に選考します。</p> <p>*3 県立横浜国際高等学校では選考方法が異なります。10ページの基本事項Q&Aや19ページの選考基準を参考にしてください。</p> <p><二次募集> 欠員がある場合、必要に応じて実施します。</p> </div> <div style="width: 65%;"> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>定時制</th> <th>通信制</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>募集</td> <td colspan="2">共通選抜の募集人員を差し引いた人員を募集(共通選抜の募集人員を満たしていない人員も加えます。)</td> </tr> <tr> <td>志願</td> <td colspan="2">ひとつの課程・学科に志願します。 志願変更ができます。 志願には願書と面接シート等を提出します。</td> </tr> <tr> <td>検査</td> <td>【共通の検査】 学力検査(3教科)・面接</td> <td>面接または作文</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="2">特色検査を実施する場合があります。</td> </tr> <tr> <td>選考</td> <td>調査書の評定(2・3年)と実施した検査の結果をもとに定められた数値算出の方法により選考します。</td> <td>調査書と実施した検査の結果をもとに総合的に選考します。</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="2"> 【共通選抜の二次募集】 学力検査(3教科)を実施し、面接を行う場合もあります。 調査書と実施した検査の結果をもとに総合的に選考します。 【定時制選抜の二次募集】 定時制は面接、通信制は面接または作文を実施します。 調査書と実施した検査の結果をもとに総合的に選考します。 </td> </tr> </tbody> </table> </div> </div>					定時制	通信制	募集	共通選抜の募集人員を差し引いた人員を募集(共通選抜の募集人員を満たしていない人員も加えます。)		志願	ひとつの課程・学科に志願します。 志願変更ができます。 志願には願書と面接シート等を提出します。		検査	【共通の検査】 学力検査(3教科)・面接	面接または作文		特色検査を実施する場合があります。		選考	調査書の評定(2・3年)と実施した検査の結果をもとに定められた数値算出の方法により選考します。	調査書と実施した検査の結果をもとに総合的に選考します。		【共通選抜の二次募集】 学力検査(3教科)を実施し、面接を行う場合もあります。 調査書と実施した検査の結果をもとに総合的に選考します。 【定時制選抜の二次募集】 定時制は面接、通信制は面接または作文を実施します。 調査書と実施した検査の結果をもとに総合的に選考します。	
	定時制	通信制																						
募集	共通選抜の募集人員を差し引いた人員を募集(共通選抜の募集人員を満たしていない人員も加えます。)																							
志願	ひとつの課程・学科に志願します。 志願変更ができます。 志願には願書と面接シート等を提出します。																							
検査	【共通の検査】 学力検査(3教科)・面接	面接または作文																						
	特色検査を実施する場合があります。																							
選考	調査書の評定(2・3年)と実施した検査の結果をもとに定められた数値算出の方法により選考します。	調査書と実施した検査の結果をもとに総合的に選考します。																						
	【共通選抜の二次募集】 学力検査(3教科)を実施し、面接を行う場合もあります。 調査書と実施した検査の結果をもとに総合的に選考します。 【定時制選抜の二次募集】 定時制は面接、通信制は面接または作文を実施します。 調査書と実施した検査の結果をもとに総合的に選考します。																							

3. 具体的な選抜方法



(1) 選抜(選考)の資料

① 調査書の評定

○ 2年3学期、3年2学期の「5段階評定(5,4,3,2,1)」を使います。

$$(2年5段階評定 \times 9教科 = 45点満点) + (3年5段階評定 \times 9教科 \times 2 = 90点満点) \\ = 135点満点$$

例えば、9教科オール3であれば、 $3 \times 9 + 3 \times 9 \times 2 = 81$
9教科オール4であれば、 $4 \times 9 + 4 \times 9 \times 2 = 108$

?
/135

- 【特徴】
- * 高校によっては、重点教科の評定に重みづけをします。
 - * 第2次選考(10%)については、「主体的に学習に取り組む態度」の評価(A,B,Cの3段階)が使われます。
 - * 調査書の「総合所見及び諸活動の記録」に記載される内容は、点数化されません。

② 学力検査

○ 国語・社会・数学・理科・英語各100点満点 $\times 5 = 500$ 点満点で、検査時間は50分間です。
定時制は国語・数学・英語の3教科を各30分で行います。
その他、例外はあります。7月に配付される「募集案内」で確認できます。

- 【特徴】
- * 高校によっては、重点教科の得点に重みづけをします。
 - * 選択問題は、マークシートで解答します。

③ 特色検査

○ 高校によっては各学校の特色に応じて、学力検査では測ることができない総合的な能力や特性を見る検査を行うことがあります。
スピーチ発表や教科横断的問題を問う「自己表現検査」、美術的内容・運動・演奏などの「実技検査」、
「面接」の3種類があります。

④ 追検査

インフルエンザなどで学力検査を受けられない場合、後日検査を受けることができます。
検査の内容は、受験教科数も含め、大きく異なります。

(2) 資料を利用した選考の方法

共通選抜は、各高校が定めた比率によって算出された数値(以下『S値』)で選考されます。

- ① 「第1次選考」は、募集人員の90%を、S値の順に選考します。
S値(S1)は、調査書(評定)・学力検査・特色検査の結果をもとに、各高校が定めた比率で算出されます。
- ② 「第2次選考」は、募集人員の10%を、S値の順に選考します。
S値(S2)は、学力検査・調査書(主体性)・特色検査の結果をもとに、各高校が定めた比率で算出されます。
※ 第2次選考では、調査書の評定を選考に利用しません。

< 例 1 : 各高校が定めた比率 (令和5年度募集案内より作成) >

	調査書	学力検査	面接	特色	重点化
横浜立野	4	4	2	—	—
横浜氷取沢	3	5	2	—	[調査書]英語(×2)
横浜緑ヶ丘	3	5	2	2 (自己表現)	—
金沢	3	5	2	—	[学力検査]英語(×1.5)、数(×1.2)
磯子工業	5	3	2	—	—
磯子工業 (定時制)	3	3 (3教科)	4	—	—

< 例 2 : 募集人員の内訳 (定員200名の場合) >

	[第1次選考]	[第2次選考]
募集人員	定員の90% = 180名	定員の10% = 20名
選考方法	調査書の評定 + 学力検査 + 特色検査	学力検査 + 調査書(主体性) + 特色検査
各資料の比率は各高校が定める		

(3) 二次募集

検査の結果、欠員が生じた場合、二次募集を行います。

志願時において、国・公・私立高等学校(高等専門学校を含む)または特別支援学校に合格している人(入学手続きをしていない場合も含む)は志願できません。志願できるのは、どこの高校などにも合格していない生徒が対象になります。学力検査は国語・数学・英語の3教科で、必要に応じて特色検査(面接)を行います。調査書・学力検査・特色検査(面接)を資料として総合的に選考されます。

Ⅲ. 私立高等学校の受験



1. 特色

- (1) 男子校・女子校・共学校の別がありますが、最近では共学化が進んでいます。
- (2) 学区はなく、独特の教育方針に基づき学校の経営や運営がなされています。

長い伝統を持つ学校も多く、独特の校風や伝統に誇りを持つ学校が多くあります。学校案内(要覧)を読んだり、実際に学校説明会に出向いて、その学校の特色(宗教・教科編成・行事・卒業後の進路・部活動・学校環境・通学の便など)をつかんでおくことが大切です。

- (3) 各高校が定めた基準を満たしていないと出願できません。

2. 受験方法

(1) 選抜の方法

- 一般には、中学校の調査書、入学試験の成績、面接の結果を総合して合否を判定する学校がほとんどです。一部の学校では、入学試験の成績を最も重視したり、面接の結果をかなり重視したりするところもあります。

- ◆ 試験科目：一般的には、国語・数学・英語の3教科です。

- ◆ 面接：志願者の人物を見るために行ないます。(志望理由・言葉づかい・態度・服装等) 志願者本人だけの面接が多いですが、保護者同伴の面接・生徒のグループ面接を学校もあります。

(2) 受験(志願)の方法

- 私立高校の受験を分類すると、つぎのようになりますが、学校、地域によって多少の違いがあります。

A. 推薦

- * ある一定の水準以上の学力があり、本人もその学校を希望し、かつ中学校長が人物、学力、生活面での態度等で適切であると認めた生徒が推薦されます。この入試は、作文(800字程度)や面接が行なわれます。また、書類だけで合否を決める学校もあります。

B. 専願(単願)

- * 本人が、その学校を希望し、他校(公立・私立)を受験せず、合格したら必ずその学校に入学するという条件で、しかも、その学校が出してきた成績などの基準を満たしている場合に受験することができます。

C. 併願

- * 第1希望が公立、第2希望が私立という場合で、多くの受験生がこの受験方法にあてはまります。この制度も私立高校ごとに成績などの基準があります。公立高校が不合格になった場合、その学校へ入学することになります。公立の発表までに前納金(5~20万円程度)が必要な場合があります。

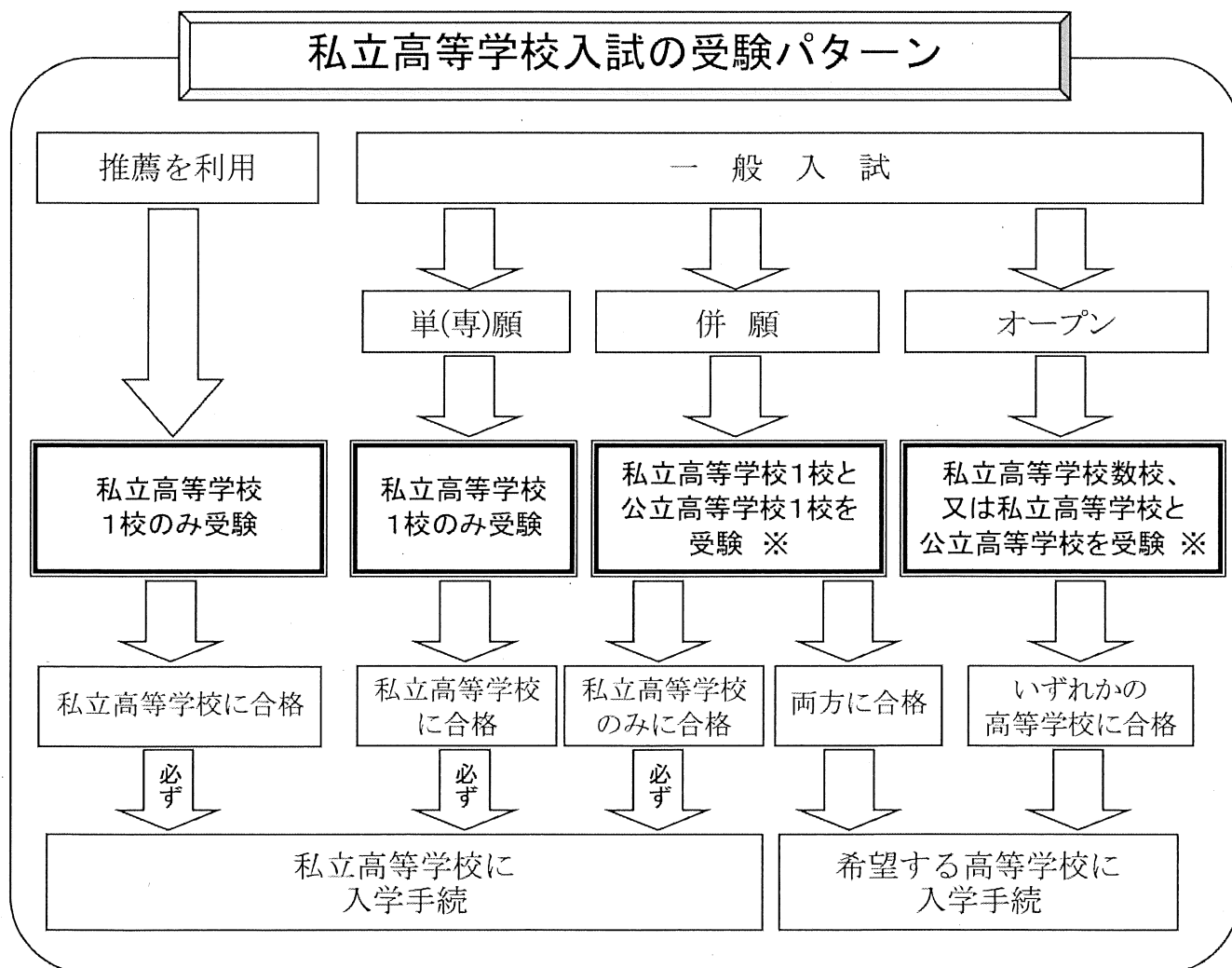
D. オープン

- * 上記の A, B, C の制度によらず、入学試験の成績により合否が決まる制度です。

3. 私立高等学校の「入試相談」制度

前述のA～Cの『推薦』、『専願』、『併願』は「入試相談」制度を利用します。この制度を利用するには、各学校が出している基準(成績、人物、欠席日数など)に適している必要があります。『推薦』と『専願』はその私立校が第1希望、『併願』は公立校との併願に限る(私立との併願ではないこと)など、各学校の条件にあっていなければなりません。高校と中学校との信頼関係に立った制度です。

このシステムは、学校によって違いますが、どんなに遅くとも12月初旬までに受験校を決定していないと利用しにくくなります。汐見台中では11月下旬に「2学期までの成績」が出た時点で受験校を決定します。この制度を利用しないのが『オープン入試』です。自由に受験できますが、当日の入試の成績次第で合否が決まります。



※ 第1希望の国立や私立の高校を「オープン」で受験して、公立高校も受検する場合、第1希望の高校に受かった場合、公立高校の合格発表の前日までに公立高校に辞退届を提出してください。

また、いかなる場合でも公立高校の入学を辞退する場合は、公立高校の合格発表の前日までに公立高校に辞退届を提出してください。



《 私立高等学校の条件(基準)について 》

資料 1 3人の生徒の2年・3年の学習成績表

* 横浜さん

	国	社	数	理	音	美	保体	技家	英	3教科計	5教科計	9教科計
2年	3	2	3	3	3	3	3	4	3	9 /15	14 /25	27 /45
3年	2	2	3	4	3	2	3	3	4	9 /15	15 /25	26 /45
〈資格〉英検3級 〈欠席〉1年：0日，2年：4日，3年：3日												79 /135

* 磯子さん

	国	社	数	理	音	美	保体	技家	英	3教科計	5教科計	9教科計
2年	3	2	2	3	3	4	4	3	3	8 /15	13 /25	27 /45
3年	3	3	1	2	4	5	3	4	2	6 /15	11 /25	27 /45
〈資格〉英検4級 〈欠席〉1年：8日，2年：8日，3年：8日												81 /135

* 汐見さん

	国	社	数	理	音	美	保体	技家	英	3教科計	5教科計	9教科計
2年	3	3	3	3	3	3	2	4	2	8 /15	14 /25	26 /45
3年	3	2	3	4	4	2	3	3	3	9 /15	15 /25	27 /45
〈資格〉英検4級 〈欠席〉1年：1日，2年：5日，3年：12日												80 /135

資料 2 2つの「私立高校」の志願の条件(基準)

私立ⓧ高校	[推薦]	3年9教科計 27/45 以上。ただし、3年3教科に「1」がないこと。 英検が3級以上なら、3年9教科計に1点加点できる。
	[併願]	3年間の欠席日数の合計が20日以下。 2年5教科計と3年5教科計の合計が 30/50 以上 または 80/135 以上。 3年間の欠席日数の合計が20日以下。
私立Ⓨ高校	[推薦]	2年3教科計と3年3教科計の合計が 15/30 以上。 ただし、2, 3年の9教科のどれかに「5」がある場合、合計に1点加点できる。 3年時の欠席日数が10日以下。
	[併願]	3年9教科計 27/45 以上 かつ 81/135 以上。

【 結果 】

	私立ⓧ高校		私立Ⓨ高校	
	[推薦]	[併願]	[推薦]	[併願]
横浜さん	○	×	○	×
磯子さん	×	×	○	○
汐見さん	○	○	×	×

3人の学習成績に大きな差はありませんが...

IV. よりよい自己実現をめざして

1. 自分に合った…

☆ ある民間企業の「高校受験調査」で、『志望校を決めるのに、次のようなことをどれくらい重視しましたか』という高校1年生に対する質問の回答を、重視した内容が高い順に紹介します。

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| ① 自分の学力にあっている | ② 通学に便利な場所にある |
| ③ 教育方針や校風がよい | ④ 学費があまりかからない |
| ⑤ 大学への進学実績がよい | ⑥ 生徒の自主性が重視されている |
| ⑦ 入りたい部活がある | ⑧ 世間での評価が高い |
| ⑨ 施設や設備が充実している | ⑩ 特色のある授業、カリキュラムがある |
| ⑪ 先生の指導(学習・進路指導など)が丁寧である | ⑫ スポーツや芸術活動が盛んである |
| ⑬ 行事(文化祭、体育祭など)がさかんである | ⑭ いじめや非行の心配がない |
| ⑮ 就職に有利である | ⑯ とりたい資格がとれる |
| ⑰ 友だちも受験する | ⑱ 留学や海外への修学旅行の機会がある |

(「Benesse 教育研究開発センター」HPより抜粋)

☆ 次の手順で「自分に合った…」を見つけてみてはいかがでしょうか？

(1) 自分の重視する点に優先順位をつけて絞り込む

- | | | |
|------------------------------------|------------------------------------|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 学力(自分の実力) | <input type="checkbox"/> 部活 | <input type="checkbox"/> 通学手段・時間 |
| <input type="checkbox"/> 進学実績 | <input type="checkbox"/> カリキュラム | <input type="checkbox"/> 費用 |
| <input type="checkbox"/> 学校行事 | <input type="checkbox"/> 卒業後の進路 | <input type="checkbox"/> 生徒の様子 |
| <input type="checkbox"/> 学校の雰囲気 | <input type="checkbox"/> 設備 | <input type="checkbox"/> 取得できる資格 |
| <input type="checkbox"/> 生徒と先生の関係 | <input type="checkbox"/> 将来の夢に繋がるか | <input type="checkbox"/> … |

(2) 自分の学力を確認する

志望校と自分との距離を正確に知ることは、受験に向けての「やる気」に繋がります。

(3) 自分の目で確認する

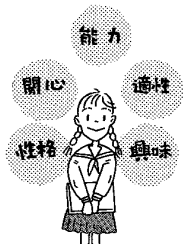
興味が沸いた学校のパンフレットやホームページに事前に目を通し、知りたいこと、確認したいことをまとめてから、見学(体験学習・説明会)に行きましょう。
憧れの高校を見学しているときなど、その雰囲気に舞い上がってしまいがちです。
できれば保護者と一緒に見学に行き、保護者の方の冷静な目で、自分がチェックしきれなかった部分をフォローしてもらいましょう。

高校選びは慎重に行うことが大切です。世の中には、せっかく受験して合格した高校が自分に合わず、辞めてしまうという人も多くいます。通学時間や学力だけで選ぶのではなく、高校でどのように過ごしたいのか、また高校生活を通じてどのような将来につなげたいのかをイメージしながら、自分に合った…を選びましょう。

2. 説明会・体験入学などに積極的に参加してください

生徒や先生の様子、学校全体の雰囲気など、データや数字に表れない印象はとても大切なものです。「理由はうまく言えないけれど、なんとなく自分に合っているような気がする…」そんな直感も大事にしましょう。

気になる学校については、各校のホームページをこまめに確認してください。



第1回 進路希望調査

※ この調査をもとに、具体的な進路活動が始まります。
ご家族で相談され、別紙の回答用紙を5月29日(月)までに、学級担任へ提出してください。

【調査1】 中学校卒業後の希望進路を ①～⑧ の中からひとつ選び、その番号を回答用紙に記入してください。
(記入した番号に応じて、指定した調査に進んでください。)

中学校卒業	⇒	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%; text-align: center;">高等学校</td> <td style="width: 40%; text-align: center;">全日制 ①</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">定時制 ②</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">通信制 ③</td> </tr> </table>	高等学校	全日制 ①		定時制 ②		通信制 ③	①～⑥ を選んだ場合、 【調査2, 3, 4, 7, 8】 に進んでください。
	高等学校	全日制 ①							
		定時制 ②							
		通信制 ③							
	⇒	高等専門学校 ④							
	⇒	高等専修学校・各種学校(サポート校を含む) ⑤							
⇒	特別支援学校高等部 ⑥								
⇒	就職 ⑦	... ⑦ を選んだ場合、 【調査5, 6, 7, 8】 に進んでください。							
⇒	就職(定時制高校等にも進学) ⑧	... ⑧ を選んだ場合、 【調査4, 5, 6, 7, 8】 に進んでください。							

【調査2】 下の表は、上級学校の校種と科(コース)を示しています。
①～⑳の中から、現在希望する第1希望と第2希望の番号を回答用紙に記入してください。
(第1希望の番号のみでもかまいません)

公立高等学校	普通科	普通	①	普通科	⑰	高等専修学校・各種学校 (サポート校を含む)	工業	⑳	
		クリエイティブ	②		工業		㉑	農業	㉒
	専門学科・専門コース	農業	③		商業		㉒	医療	㉓
		工業	④	家庭	㉓		衛生	㉔	
		商業	⑤	外国語	㉔		教育・社会福祉	㉕	
		水産	⑥	音楽	㉕		商業事務	㉖	
		看護	⑦	理数	㉖		服飾・家政	㉗	
		福祉	⑧	情報	㉗		文化・教養	㉘	
		家庭	⑨	その他	㉘		その他	㉙	
		理数	⑩						
		国際	⑪						
		美術・芸術	⑫						
		音楽	⑬						
		スポーツ	⑭						
	その他	⑮							
	総合学科	⑯							
				私立高等学校	⑰			高等専門学校	㉚
					⑱			特別支援学校高等部	㉛

【調査3】 上級学校をどのように受検・受験したいと考えていますか。

①～⑧の中からひとつ選び、その番号を回答用紙に記入してください。

- ① 公立を第1希望にして、公立のみ受検する。
- ② 公立を第1希望にして、私立(高等専修学校等を含む)を併願受験する。
- ③ 私立(高等専修学校等を含む)を第1希望にして、私立のみ受験する。
- ④ 私立(国立)を第1希望にして、他の私立を受検・公立を受検する。
- ⑤ 高等専門学校を第1希望にして、他の私立を受検・公立を受検する。
- ⑥ 特別支援学校高等部を第1希望にする。
- ⑦ 未定

【調査4】 具体的に志望する上級学校がある場合は、回答用紙に記入してください。(高等学校以外の校種も含む)

【調査5】 就職活動をどのようにしたいと考えていますか。

①～③の中からひとつ選び、その番号を回答用紙に記入してください。

- ① 学校・職業安定所を通して
- ② 知り合いを通して
- ③ 未定

【調査6】 具体的に志望する事業所(会社)、または職種がある場合は、回答用紙に記入してください。

【調査7】 その他、進路のことで困っていること、あるいは相談事項がある場合は、回答用紙に記入してください。

【調査8】 お子様の進路について、保護者としての現在のお考えを、回答用紙に記入してください。

V. 資料編 (令和5年度「募集案内」より抜粋)

1. 公立高等学校の受検料等の額

I 受検料等の額について

(令和4年5月1日現在における令和5年度入学生予定額です。)

(1) 受検料

区分	県立	横浜市立	川崎市立	横須賀市立
全日制の課程	2,200円	2,200円	2,200円	2,200円
定時制の課程	950円	650円	950円	950円
通信制の課程	無料			

(2) 入学料

区分	県立	横浜市立	川崎市立	横須賀市立
全日制の課程	5,650円	5,650円	5,650円	5,650円
定時制の課程	2,100円	1,200円	2,100円	2,100円
通信制の課程	無料			

※ 経済的な理由で支払いが困難な方に対し、受検料、入学料の全部または一部を免除する制度があります。(36ページを参照)

(3) 授業料

区分	県立	横浜市立	川崎市立	横須賀市立
全日制の課程	(年額)118,800円	(年額)118,800円	(年額)118,800円	(年額)118,800円
定時制の課程	(年額)32,400円	(年額)32,400円	(年額)32,400円	(年額)32,400円
通信制の課程	1単位350円 (平日登校履修は 1単位700円)			

※ 以下の算定式により計算した額が、30万4,200円未満(年収910万円程度未満)の世帯については、申請の手続を行うことで、授業料をご負担いただく必要がなくなります。(36ページを参照)

【算定式】(市町村民税の)課税標準額×6% - (市町村民税の)調整控除の額
(ただし政令指定都市は、調整控除の額に3/4を乗じる)

II 受検料等に関する問合せ先

受検料等については、各高等学校または下記の所属にお問い合わせください。

区分	所属名	電話番号
県立	神奈川県教育委員会教育局行政部財務課	(045)210-8113 (直通)
横浜市立	横浜市教育委員会事務局学校教育企画部 学校支援・地域連携課	(045)671-3474 (直通)
川崎市立	川崎市教育委員会事務局総務部学事課	(044)200-3269 (直通)
横須賀市立	横須賀市教育委員会事務局学校教育部教育指導課	(046)822-8525 (直通)

III その他の経費について

神奈川県公立高等学校では、このほかに教科書代・副教材代・修学旅行費などの経費がかかります。

詳細については、各高等学校にお問い合わせください。

入学検定料等減免制度（県の制度）

（令和4年5月1日現在における制度であり、内容については改定する場合がありますので事前に確認してください。）

県立の高等学校では、受検料、入学料の全部または一部を免除する制度があります。免除の対象になるのは、次のいずれかに該当する方です。

- ①生活保護を受給されている方 ②児童福祉施設に入所されている方又は里親に保護を受けている方 ③経済的な理由で支払いが困難な方 ※ただし「③経済的な理由で支払いが困難な方」の場合は、課税証明書等による審査が必要となります。
- 手続について
12月中旬以降に通学している中学校を通じて、申請書を入手してください。なお、免除申請手続は、各高等学校で行います。
- 申請期限について
免除申請手続は、受検料は願書受付開始日の前日までに、入学料は入学手続開始日の前日までに済ませてください。期限を過ぎたものについては免除することはできません。
- 問合せ先 各高等学校の事務室 または
県教育委員会財務課財務指導グループ TEL (045)210-8113(直通)
- 横浜市立、川崎市立、横須賀市立の各高等学校でも減免制度がありますので、各市立高等学校の事務室または各市の教育委員会にお問い合わせください。

2. 公立学校の就学支援金制度の概要

県立、市立共通の制度

（内容については改定する場合がありますので事前に確認してください。）

公立高等学校は原則として授業料を徴収しますが、申請の手続をすることにより、授業料の負担がなくなる場合があります。

- 対象となる方
以下の算定式により計算した額が、30万4,200円未満（年収910万円程度未満）の世帯の生徒 【算定式】(市町村民税の)課税標準額×6% - (市町村民税の)調整控除の額
(ただし政令指定都市は、調整控除の額に3/4を乗じる)
- 支給額
全日制：(年額) 118,800円 定時制：(年額) 32,400円
通信制：1単位336円
- ※ 生徒は授業料を納めることなく、学校が生徒に代わって国より就学支援金を受領し、授業料に充てます。(実際に支給額が支給される制度ではありません。)
- ※ 通信制については、受講料の納付後、年度末に還付します。
- 手続について
入学する高等学校で合格発表時に申請書等を配付します。
原則として、マイナンバーカードの写し等（マイナンバーにより「市町村民税の課税標準額」と「市町村民税の調整控除の額」を確認します。）を添付して入学する高等学校に申請書をご提出いただきます。
◇ 対象となる方は必ず手続をしてください。手続が行われないと授業料をご負担いただきます。
- 問合せ先 各高等学校の事務室
または 県教育委員会財務課財務指導グループ TEL (045)210-8113(直通)
- ※ 手続は各高等学校で行います。

3. 高校生の就学援助制度の概要

I 県の制度

(内容については改定する場合がありますので事前に確認してください。)

1 神奈川県奨学金（貸付け）

(1) 高等学校奨学金

- 貸付対象（次のア・イのいずれにも該当し、学校長が推薦する生徒）

ア 生徒本人又は保護者が神奈川県内に住所を有し、高等学校等（高等学校、中等教育学校の後期課程、特別支援学校の高等部又は専修学校の高等課程）に在学する生徒

イ 保護者（同一生計の父母。父母がいない場合は代わって家計を支えている方）の「都道府県民税所得割額」と「市町村民税所得割額」の合算額が507,000円未満であること

- 貸付月額

学年及び学校区分により申込みができる基本月額が異なります。

学年	学校区分	申込みができる基本月額					加算を申込 んだ場合※
		10,000円	20,000円	30,000円	40,000円	50,000円	
1年生 (新入生に限る)	国公立	10,000円	20,000円	30,000円			—
	私立	10,000円	20,000円	30,000円	40,000円	50,000円	—
上記以外 の生徒	国公立	10,000円	20,000円				30,000円
	私立	10,000円	20,000円	30,000円	40,000円		50,000円

※ 貸付月額の加算（1年生（新入生）以外が対象）

国公立20,000円、私立40,000円では必要な学資を賄えない場合に、その事情等を記載した書類を提出することにより、基本月額に10,000円を加算することができます。

- 貸付期間 4月から3月までの1年間
- 申込方法
 - ・ 予約採用 中学3年生の時(11月上旬に中学校を通じてご案内します。)に予約の申込みをすることができます。(申込みの期限があります。)
 - ・ 在学採用 入学後、4月に学校を通じて手続きをします。
 - ※ 家計急変などで年度途中で学資の援助が必要となった場合は随時に受付をします。
- 返還方法 無利息で、卒業後6か月の据置期間を経過した後、貸付期間の4倍以内の期間で返還していただきます。

(2) 短期臨時奨学金

- 高等学校等に在学することとなる生徒の進学準備のための費用に充てられるよう、入学前の3月末に高等学校奨学金の一部に相当する額を前倒して貸し付ける制度です。
- 貸付金額 120,000円
- 対象者 高等学校奨学金の予約採用奨学生として採用された方
- 申込方法 高等学校奨学金の予約採用決定時にご案内します。
- 返還方法 入学後に応募する高等学校奨学金の貸付金の一部と相殺して返還します。

※ 問合せ先 入学した高等学校等の奨学金担当者 または
県教育委員会財務課高校奨学金グループ Tel (045) 210-8251(直通)

- (1)(2)のいずれの奨学金も連帯保証人（独立の生計を営む成年者）が原則2人必要になります。
- 奨学金の貸付けにあたっては選考を行いますので、必ず貸付けされるとは限りません。
- 応募要件等は変更される場合がありますので、令和5年度の募集案内（令和5年3月作成予定）を参照してください。

2 高校生等奨学給付金（返還不要）

(1) 対象者（次のア～ウのいずれにも該当する世帯）

- ア 保護者等が神奈川県内に住所を有していること。
- イ 生活保護（生業扶助）受給世帯または住民税所得割非課税世帯であること。
- ウ 就学支援金、学び直し支援金または専攻科支援金受給対象である高校生等がいること。

(2) 支給額（年額）

世帯区分		学校区分	全日制 定時制	通信制	専攻科	
生活保護（生業扶助）受給世帯		国公立	32,300円		給付対象外	
		私立	52,600円		給付対象外	
住民税所得割 非課税世帯	15歳以上 23歳未満の 扶養されている 兄弟姉妹が	いない	国公立	114,100円	50,500円	50,500円
			私立	134,600円	52,100円	52,100円
	いる	国公立	143,700円	50,500円	50,500円	
		私立	152,000円	52,100円	52,100円	

(3) 手続について 入学後、学校を通じて手続をします。

◆ 新入生を対象とした一部早期給付制度や家計急変世帯を対象とした給付制度もあります。

※ 問合せ先 入学した高等学校等の事務室 または

- <国公立> 県教育委員会財務課高校奨学金グループ TEL (045)210-8251(直通)
- <私立> 県福祉子どもみらい局私学振興課助成グループ TEL (045)210-3793(直通)

3 母子父子寡婦福祉資金

- 母子家庭または父子家庭で、生徒の修学等にあたり、経済的に援助を必要としている方を対象に資金の貸付けを行っています。

○ 貸付額

修学に必要な資金（修学資金）

公立	月額 18,000円以内(上限額 27,000円)
私立	月額 30,000円以内(上限額 45,000円)

（自宅外の通学は、増額貸付けが受けられます。特に認める場合に限り上限額まで貸付可能です。）

入学に必要な資金（就学支度資金）

公立	150,000円以内
私立	410,000円以内

（自宅外の通学は、増額貸付けが受けられます。）

- 問合せ先 ・横浜、川崎、相模原、横須賀にお住まいの方は、各市の母子父子福祉担当課
- ・その他の市町村在住の方は、お住まいの市 または
県福祉子どもみらい局子ども家庭課家庭福祉G TEL (045)210-1111(内線 4671、4677)

II 市町村の奨学金制度

市町村の奨学金制度

市町村の奨学金制度は、市町村ごとに申請締切日や年収額などの要件がことなりますので、詳細については、お住まいの市町村の教育委員会にお問い合わせください。

III その他の学費助成制度

名称	団体名	問い合わせ先
国の教育ローン	日本政策金融公庫	教育ローンコールセンター (0570)008656 または (03)5321-8656 または日本政策金融公庫各支店
交通遺児育英会奨学金	(公財) 交通遺児育英会	(0120)521286(フリーダイヤル)
生活福祉資金	(社福) 神奈川県社会福祉協議会	(045)311-1426
教育ローン	一般市中金融機関	

4. 私立高等学校等の学費支援制度等について

神奈川県では私立高等学校等に在学する生徒の保護者等の経済的負担を軽減するため、入学金・授業料の返還不要の補助を行っています。

授業料については、年収約700万円未満の世帯の方に対して、県内私立高校の平均授業料456,000円まで、入学金については、生活保護世帯・住民税非課税世帯の方に対して県内私立高校の平均入学金210,000円まで支援します。

また、多子世帯については、年収約800万円未満の世帯の方に対して、県内私立高校の平均授業料456,000円まで支援します。

私立高等学校等…専修学校（高等課程）、中等教育学校（後期課程）を含みます。

令和4年5月1日時点の制度となります。

令和4年度の授業料・入学金補助額（年額）

- 補助額の判定は、「市町村民税の課税標準額×6%－市町村民税の調整控除の額※1」（父母合計額）にて行います。
- 以下の「年収の目安」は、あくまでも目安であり、所得控除の状況などにより変わります。
- 学校への納付額が補助額を下回る場合、納付額が上限額となります。

所得区分	授業料補助		入学金補助		
	①高等学校等就学支援金(国)	②学費補助金(県)			
生活保護	生活保護	396,000円 (通信制 297,000円)	+ 60,000円 通信制 159,000円	210,000円	→ 授業料:456,000円 入学金:210,000円
非課税	「県民税・市町村民税の所得割額の合算額」が0円 ※2				
270万円～590万円未満	154,500円未満	396,000円 (通信制 297,000円)	+ 60,000円 通信制 159,000円	100,000円	→ 授業料:456,000円 入学金:100,000円
590万円～700万円未満	203,100円未満	118,800円	+ 337,200円	100,000円	→
700万円～750万円未満	227,100円未満	118,800円	+ 74,400円	100,000円	→ 授業料:193,200円 入学金:100,000円
多子世帯※3	227,100円未満	118,800円	+ 337,200円	100,000円	→ 授業料:456,000円 入学金:100,000円
750万円～800万円未満	251,100円未満	118,800円			→ 授業料:118,800円
多子世帯※3	251,100円未満	118,800円	+ 337,200円		→ 授業料:456,000円
800万円～910万円未満	304,200円未満	118,800円			→ 授業料:118,800円
多子世帯※3	304,200円未満	118,800円	+ 74,400円		→ 授業料:193,200円

※1 政令指定都市の場合は、「調整控除の額」に3/4を乗じます。

※2 「市町村民税の課税標準額×6%－市町村民税の調整控除の額」では判定しません。

※3 多子世帯…15歳以上23歳未満の扶養している子ども（中学生を除く）が3人以上いる世帯

※4 モデル世帯…親権者1名のみ収入があり、専業主婦（主夫）と扶養控除内に子ども2人の4人家族

①就学支援金（国の制度）……私立高等学校等に在学する生徒が、家庭の状況にかかわらず、安心して勉学に打ち込めるよう、授業料を補助する制度です。

②学費補助金（県の制度）……私立高等学校等に在学する生徒の保護者等の経済的負担を軽減するため、入学金・授業料を補助する制度です。生徒・保護者等ともに県内在住、かつ県内設置の私立高等学校等に通う生徒が対象となります。

このページの問い合わせ先

福祉子どもみらい局子どもみらい部私学振興課助成グループ ☎(045)210-3793(直通)

〒231-8588 横浜市中区日本大通1

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3e/jyosei/gakuhsien/index.html>

神奈川県 学費支援

検索



令和5年度 進路日程 改訂版

月	進路の手続き等	進学	個別支援級	就職	学校行事
4		「公立入試選抜日程」発表			学習状況調査
5	★第1回説明会(9(火)) ☆希望調査①(9(火)-29(月))	体験入学、見学会、説明会、文化祭	学校見学会		修学旅行 体育祭
6		<u>全公立展(17(土))</u> 高校見学バスツアー(28(水))	学校見学会		春季テスト(22(木)-23(金))
7	※面談①(10(月))-14(金)) ☆希望調査②(面談-8/28(月))	公立「募集案内」配付	志願相談	職業適性検査	
8					
9			志願相談 各種学校出願入試・発表		夏季テスト①(木)-22(金))
10	★第2回説明会(3(火)) ☆希望調査③(3(火)-16(月)) ※面談②(26(木)-11/1(水))	公立定員発表		求人票受理	学校祭
11	☆希望調査④(7(火)-27(月)) 進路用成績配布	公立「入試要項」発表 【私立】推薦志願申出 【私立】推薦者校長面接	前期選拔出願	就職相談 希望事業所決定	秋季テスト(15(水)-16(木))
12	※面談③(4(月)-8(金)) 【私立】受験校決定 調査書等記載事項確認書配付 学区・志願確認申請	↓ 私立進路相談 公立「志願のてびき」配付	前期選抜入学検査・発表	事業所見学	
1	【公立】受検校決定	◆私立・公立願書点検 【私立】推薦出願・入試・発表 【私立】一般出願 【公立】出願(24(水)-31(水))	後期選抜入試検査・発表	就職試験開始	
2		【私立】一般入試・発表 【公立】検査(14(水))・発表(28(水))			冬季テスト(1(木))
3		【公立定通分割】出願・検査・発表			卒業式

公式な情報については、神奈川県ホームページ「神奈川県公立高等学校入学者選抜について」をご覧ください。

上記HPには、表にある「募集案内」「志願のてびき」もPDFで見られます。新しい版が出るまでは、昨年度版です。「神奈川」「募集案内」、「神奈川」「てびき」などで検索すると見つけやすいです。